



BM かんこう立平 デコジップ 施工マニュアル



BM かんこう立平葺 デコジツブ 施工マニュアル

目次


1. 取り扱い時のお願い	1p
2. 2-1. 性能試験	2p
2-2. 雨音騒音レベル測定結果	3p
3. 施工工具一覧表	4p
4. 製品特徴	5p
5. 5-1. 本体の仕様	6p
6. 標準役物	7p
7. 新築屋根施工	
7-1. 施工手順	10p
7-2. 新築屋根下地	11p
7-3. 防水紙の施工	12p
7-4. 施工・納めの各部位	13p
7-5. 本体の施工(参考)	14p
7-6. 各部の納め[新築用](参考)	15p
8. 施工後の注意[点検・補修・清掃]	30p

1. 取り扱い時のお願い


安全上の注意／移動・荷揚げ時の注意／残材処理

施工前に、この説明書を必ずお読みの上、正しく施工してください。
現場作業においては労働安全衛生法をはじめとする
関係法令・規則及び当社施工マニュアルに則り作業を行ってください。

安全上の注意


 **警告** この表示の欄は死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

1. 屋根工事は高所作業です。
高所作業は関係法規に従ってください。事故の可能性があります。
2. 強風・雨天・降雪時の高所作業は中止してください。
風にあおられる・雨や雪で滑るなどの原因で、落下事故の可能性がります。
3. 屋根材を荷揚げ・一時仮置きの際は滑り落ちないように固定する等、滑落防止措置をしてください。


 **注意** この表示の欄は障害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

1. 施工前に屋根材を置くときは、堅固で平らな場所に、水平においてください。崩れ落ちると危険です。
2. 取り扱いには手袋等適切な保護具を着用してください。
3. 電動工具など、工具の使用の際は、各工具の取り扱い説明書に従って正しくご使用ください。
4. 整理・整頓等公衆災害の防止に心掛けてください。
5. 作業前に健康状態の確認、及び作業規律の徹底を行ってください。

移動・荷揚げ時の注意

 **警告** この表示の欄は死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

1. 荷揚げにクレーンを使用する場合は、クレーン作業半径内に立ち入らないでください。
強風雨時の荷揚げは絶対禁止です。
2. 適正な吊り具を使用し、当て板等を用いてロープ掛けによる損害を防いでください。
3. 製品の表面は滑りやすいので、製品の上に乗ったり歩行したりしないでください。転落する危険があります。
4. 屋根上に荷揚げした製品は、長時間放置せずに、速やかに施工してください。風雨により荷崩れする恐れがあります。

 **注意** この表示の欄は障害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

1. 手で扱う場合は必ず軍手・皮手を使用してください。製品のエッジ部は鋭利になっています。切傷の危険があります。
2. 輸送中は荷崩れを起こさない様、布バンド等で荷締めしてください。その時必ず当て木をしてください。
3. 輸送・保管中は必ず製品に養生シートを掛けてください。
風雨により製品本来の性能が劣化する危険があります。
4. 使用するまでは、屋内の平らな場所に枕木やパレットを敷いてその上に保管してください。日光や風雨により製品が変質する恐れがあります。
5. 製品表面に傷をつけるような靴の使用はやめてください。
6. 屋根に上がる時は、靴底の泥を落としてから上がってください。

移動・荷揚げ時の注意

残材は【廃棄物の処理及び清掃に関する法律】に基づき処理をしてください。

2-1. 性能試験



強度不足により屋根が飛散する恐れがありますので、
建告-平成12年1458号、1454号に定める風圧力が
不明な場合は最寄の営業担当までご相談ください。

■耐風圧性試験

試験場所	日鉄鋼板株式会社 尼崎製造所 建材開発センター	
試験日	2019年6月20日	
試験体	屋根材	1, 950mm×1, 950mm ニスクカラー鋼板 t=0.4mm
	架台	2, 100mm×2, 100mm
	減圧補助材	ビニールシート
試験機	形式気密箱式・最大加圧:±10,000N/m ²	
破壊荷重	9,500N/m ²	
許容荷重	4,750N/m ²	

■送風散水試験

試験場所	日鉄鋼板株式会社 尼崎製造所 建材開発センター	
試験日	2019年6月20日	
試験体寸法	屋根材	1, 400mm×2, 000mm
	防水材	ニスクカラー鋼板 t=0.4mm
	野地板	透明アクリル板 t=6.0mm
試験機	送風散水水密試験装置	
	散水量	4ℓ/min/m ² (降水量240mm/hに相当)
試験結果	風速30m/s 5分間漏水なし(ホットメルトなし)	

※上記試験は、本体のみの水密性の確認であり、屋根構成の
一般的評価としては2次防水(野地板+防水シート)を含みます。

■動風圧/送風散水水密試験装置



30m/sec: 捨て板部に水滴を確認



2-2. 雨音騒音レベル測定結果

デコルーフの雨音騒音レベルを測定

試験日………2016年6月22日・23日・24日

試験場所………日鉄鋼板(株) 尼崎製造所
「雨音騒音試験装置」

試験体………デコルーフH30-455(下図の3種類を製作)

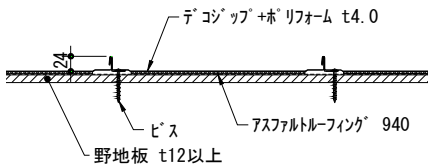


図1 新築工法(ポリ付)

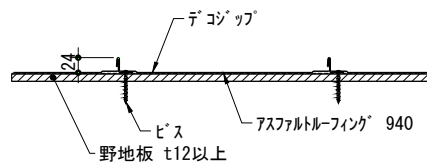


図2 新築工法(ポリなし)

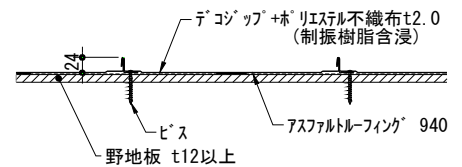


図3 新築工法+制震材

試験方法

1. 降雨装置

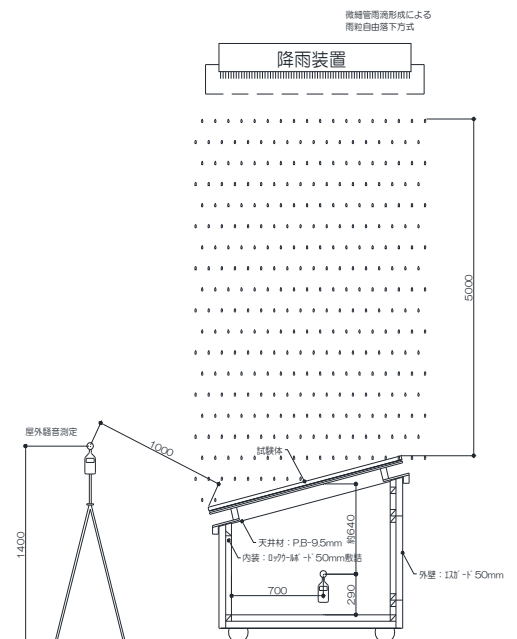
- ・ 微細管雨滴自由落下方式
- ・ 降雨面積 1950mm×1950mm
- ・ 降雨量 50mm/Hr

2. 騒音計

- ・ リオン社製 普通騒音計 NL-42

3. 実験BOX

- ・ 約W1600mm×D1400mm×H700mm
- ・ 壁・床/エスガード+内装/ロックウール仕上げ



試験結果

(社)日本建築学会による室内騒音レベルの推奨値「40dbA以下」を降雨量50mm/Hr(気象庁ではバケツをひっくり返したような激しい雨)でもほぼ推奨値です。

又、制震材(オプション)付きの屋根では室外で発生する雨音も軽減されており、直上に部屋のある下屋などに使用しても軽減効果が期待出来ます。

騒音レベルdb(A)	新築工法			他工法	
	ポリ付	ポリなし	制震材	平形スレート	日本瓦葺土無
80					
70					
60	◆60.5	◆63.4	◆59.0		◆54.3
50				◆52.3	
40	△43.0	△45.6	△42.0	△39.1	△34.9
30					
20		デコジップ			

3. 施工工具一覧表

のこぎり



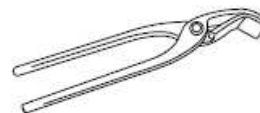
金槌



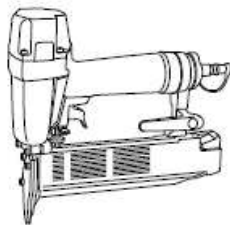
金切鉗



つかみ鉗



エアードリル



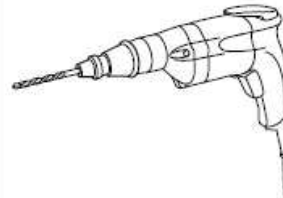
ハンドリベッター



充電ドライバー



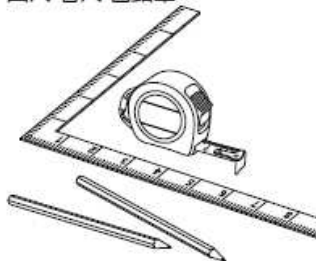
電気ドリル



チョークライン



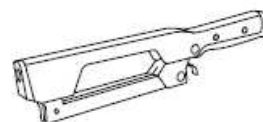
曲尺・巻尺・色鉛筆



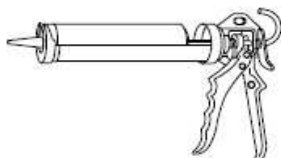
水準器



ハンマータッカー



コーキングガン



電気コード



安全めがね・ゴム底の靴



4. 製品特長

意匠

屋根板溝部をフラット・横さざ波・縦リブ・縦さざ波の4タイプから選択できる、高い意匠性。

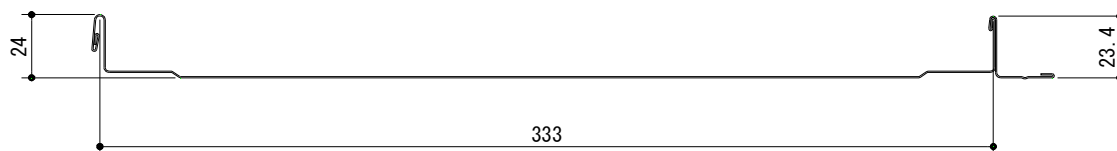
遮音性

オプションの制震材を裏面に施すことで、優れた雨音の減少を実現しました。

防水性

嵌合部の上重ねハゼ内部にホットメルトタイプのシーリング材を充填し、強風、豪雨、積雪時に高い性能を発揮します。

■デコジップ



施工性

吊子一体型の嵌合立平葺きなので、吊子もハゼ締め作業も必要なく、圧倒的な施工効率とコストパフォーマンスに優れています。

耐食性

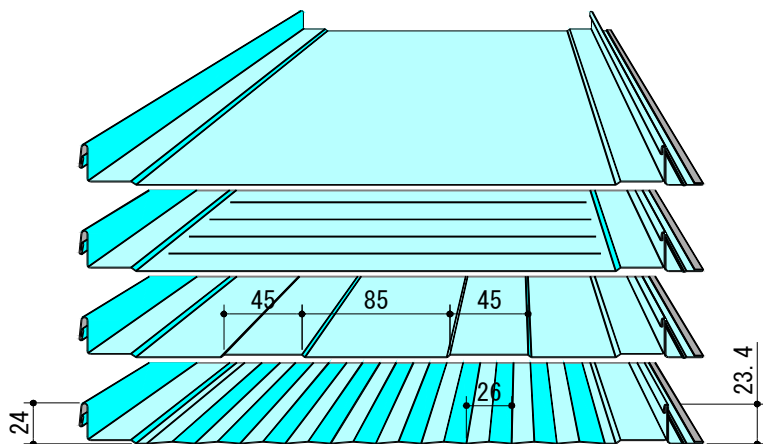
原板に耐食性の非常に優れたエスジーエル®鋼板（次世代ガルバリウム鋼板）を、採用し飛躍的な耐食性を誇ります。



5. 本体

5-1 本体の仕様

■デコジップ



■本体構成

使用材名		仕様・規格
表面材	素材	日鉄鋼板株式会社 「エスジーエル®・ガルバリウム鋼板®」
	色	ニスクカラーPro® デコジップ色見本帳をご参照ください ※カラーステンレスも加工可能です。 詳しくはお問合せください。
裏貼り材	断熱材	ポリエチレンフォーム 又はフェンエース 厚さ 4mm ※注1

※注1：裏貼り対応の形状はフラット・横さざ波となります。

■標準仕様

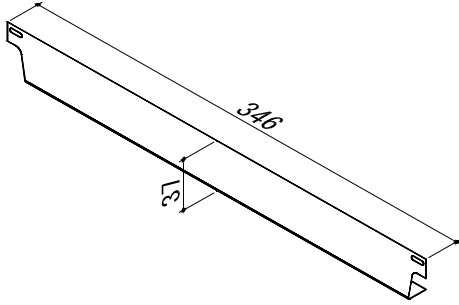
	デコジップ	
形状タイプ	フラット・横さざ波・縦リブ・縦さざ波	
使用材料	鋼板 (GL・SGLベース) : 0.4mm / ステンレス鋼板 : 0.4mm	
働き幅	333mm	
m ² 当りのm数	3m	
m当りの重さ	1.52kg	
屋根勾配	5/100以上	
成型長さ	min1500mm / max ご相談ください	
最小曲げ半径	10m以上 (横さざ波付き)	
ハゼ部の高さ	24mm	
母屋間隔	607mm(606.7mm)以下	
固定ビス	鉄骨下地 ドリルねじ	ビスサイズ及び固定ピッチは強度計算による(専用ビスを用意しています)
	木造下地 タッピングねじ	

6. 標準役物

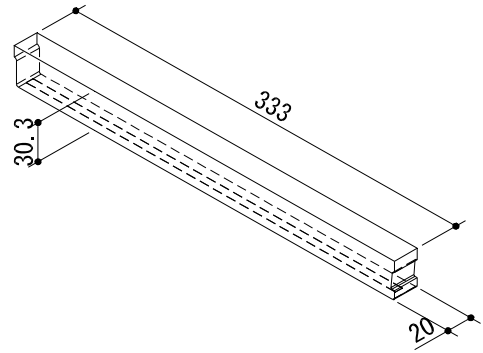
標準付属部品

棟エプロン

・厚さ:0.4mm

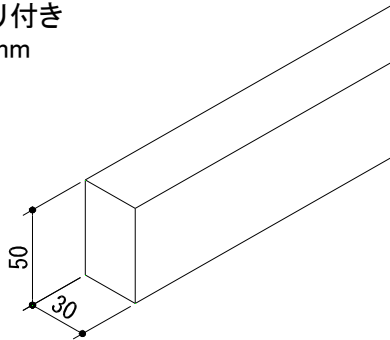


ケミカル面戸



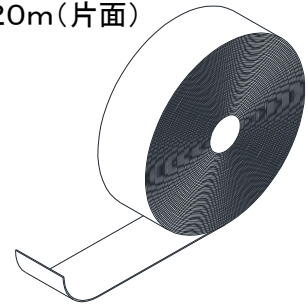
下り棟用面戸

- ・(EPDM)ノリ付き
- ・L=2000mm



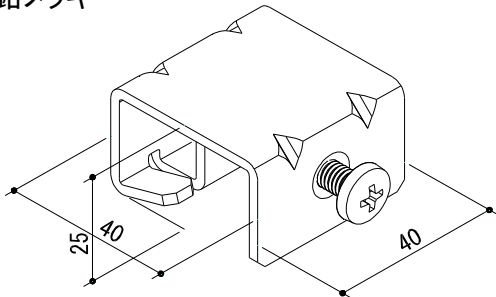
板金用プチルテープ

- ・0.5mm×30mm×20m(両面)
- ・0.5mm×100mm×20m(片面)



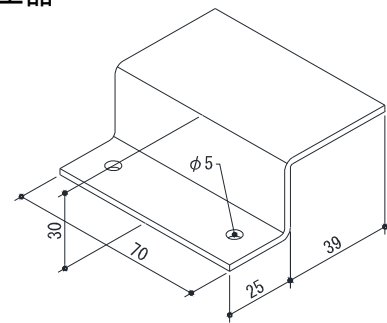
棟金具

- ・PL-2.3mm加工品
- ・溶融亜鉛メッキ



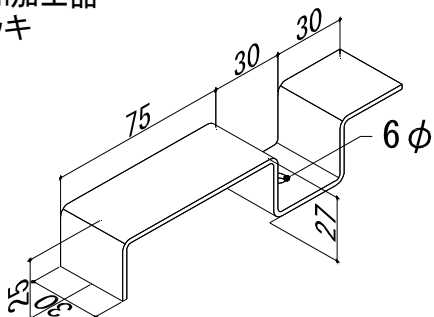
棟板下地金物

- ・PL-2.3mm加工品
- ・溶融亜鉛メッキ



雨押え金物

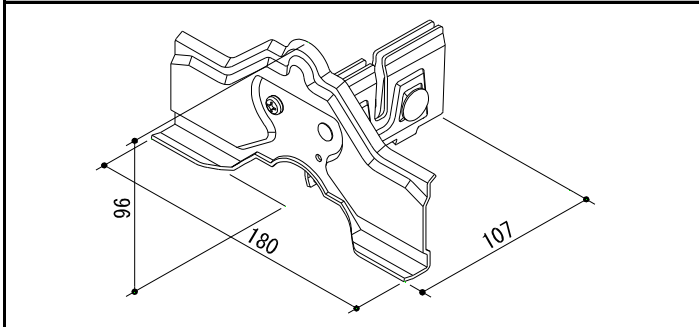
- ・PL-2.3mm加工品
- ・溶融亜鉛メッキ



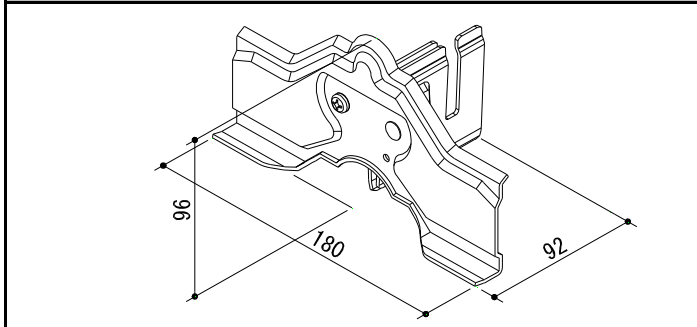
6. 標準役物

付属部品

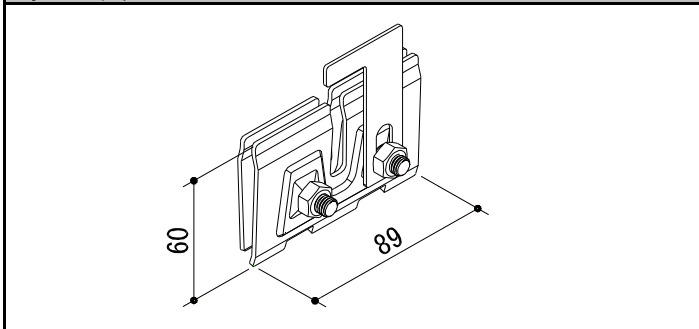
雪止金具ダブルタイプ:羽



雪止金具シングルタイプ:アングル:羽



雪止金具ダブルタイプ:アングル



■専用ビス

木下地用ビス(パッキン付)		鉄骨下地用ビス(パッキン付)		薄板用役物ビス(AZW)		木下地用役物ビス(AZW)	
材質/ 表面処理	鋼製/三価Zn SUS410/SG処理	材質/ 表面処理	鋼製/三価Zn	材質/ 表面処理	鋼製/三価Zn SUS410/SG処理	材質/ 表面処理	鋼製/三価Zn SUS410/SG処理
サイズ:4.6×25・45		サイズ:5×35×35・45		サイズ:4.5×16		サイズ:4.6×25	

※TECネイル(ステンレスカラー釘:平頭Rスクリュー)

ニスクカラーに合わせて全色用意しています。(在庫は最寄の営業所に御確認ください)

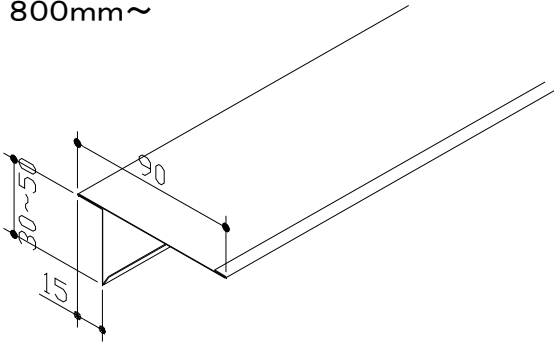
＃14×32mm(1kg入/約1000本)＃14×38mm(1kg入/約850本)

6. 標準役物

付属部品

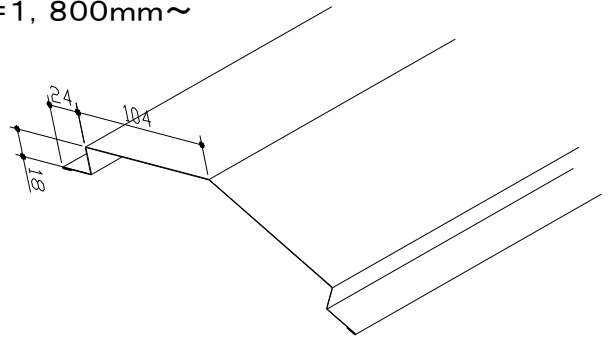
軒先けらば唐草

・L=1,800mm~



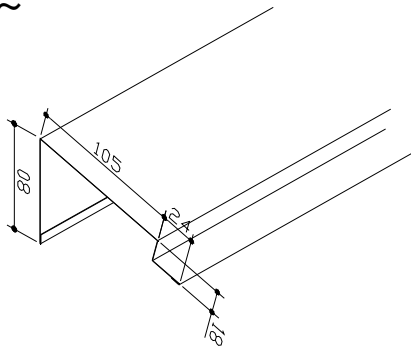
棟包み

・L=1,800mm~



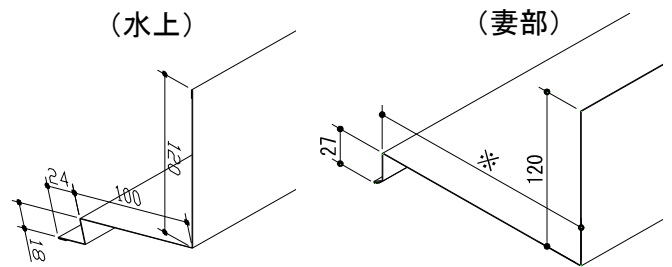
片棟包み

・L=1,800mm~



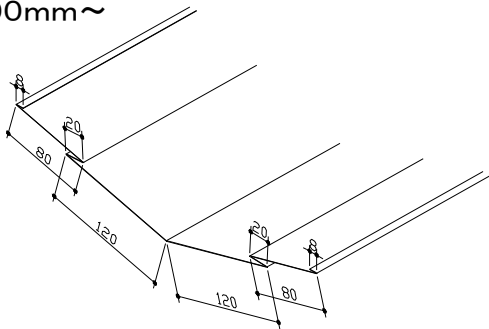
雨押え

・L=1,800mm~



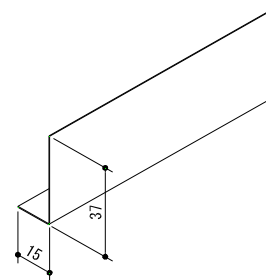
W本谷(谷板)

・L=1,800mm~



隅棟用エプロン(別注加工品)

・L=1,800mm~



立下げ機



掴み込み機



7-1 施工手順

防水紙貼り

防水紙は、アスファルトルーフィング940品以上のものを使用し、重ね代は鉛直(上下)方向では、100mm以上、水平(左右)方向では200mm以上としてください。
(『7-3防水紙の施工』をご参照ください。)

墨出し

各部の施工

各部の施工及び納め方は、『各部納まり』をご覧になって適切に行ってください。

検査(補修)・クリーニング

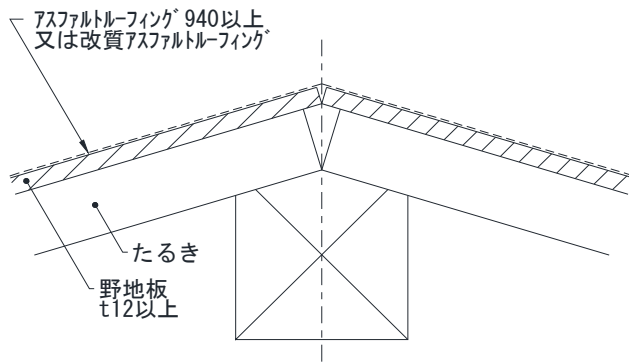
ルーフについた傷の補修や、ルーフのクリーニングは『施工後の注意』をご覧になって適切に行ってください。

7. 新築屋根

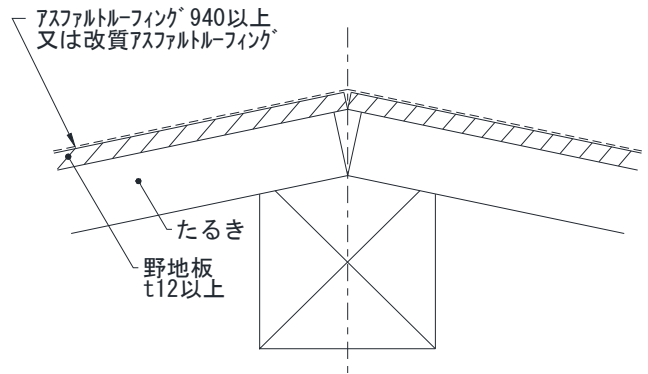
7-2 新築屋根下地

1. 屋根勾配は「5/100」以上取ってください。
2. 下葺き材のアスファルトルーフィングは、『7-3 防水紙の施工』に従い確実に施工してください。
以下『各部の納まり』をご覧になって適切に行ってください。なお雨天時及び下地が湿潤している時は施工は避けてください。

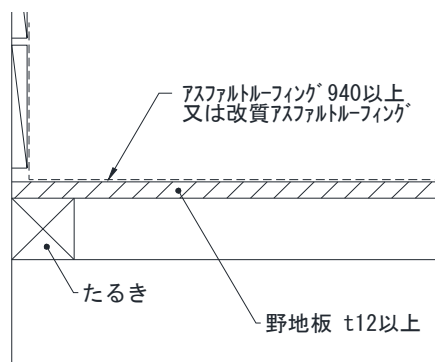
主棟部



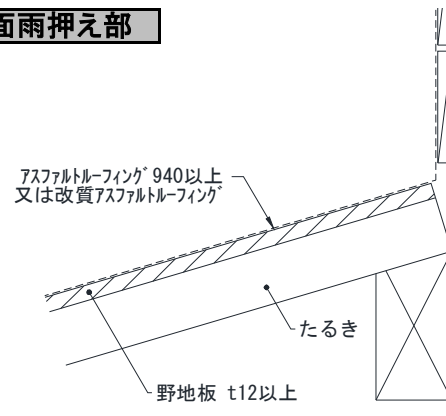
隅棟部



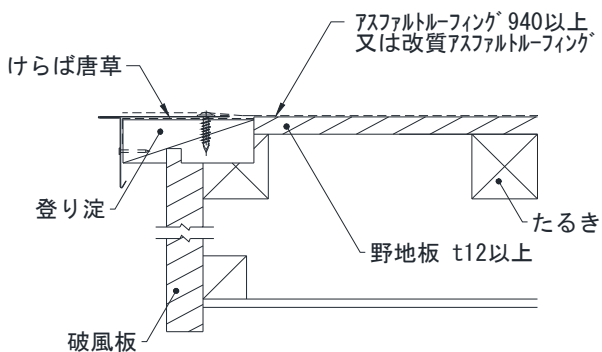
側面雨押え部



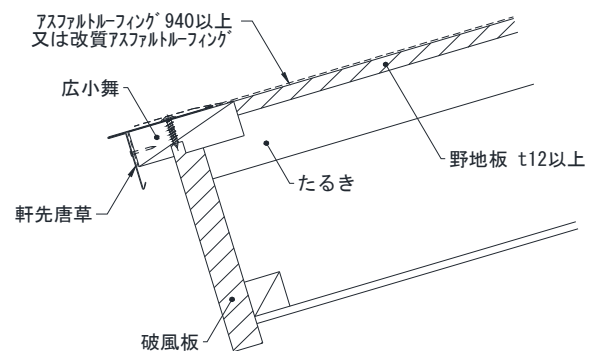
正面雨押え部



ケラバ部



軒先部

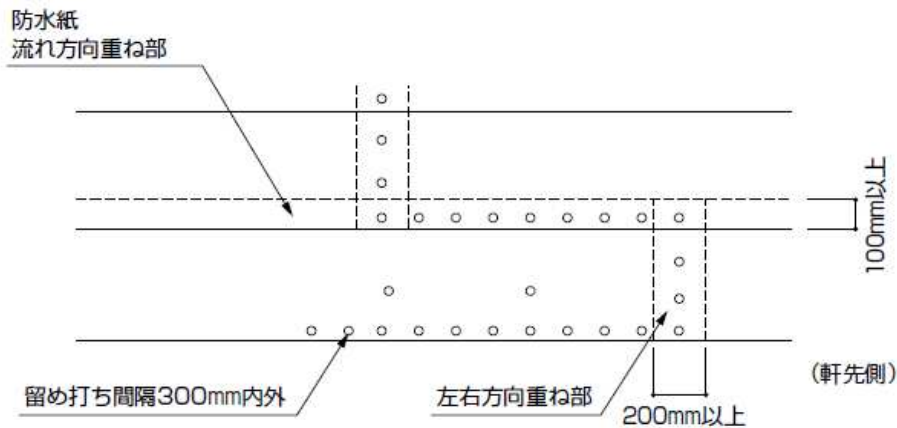


7. 新築屋根

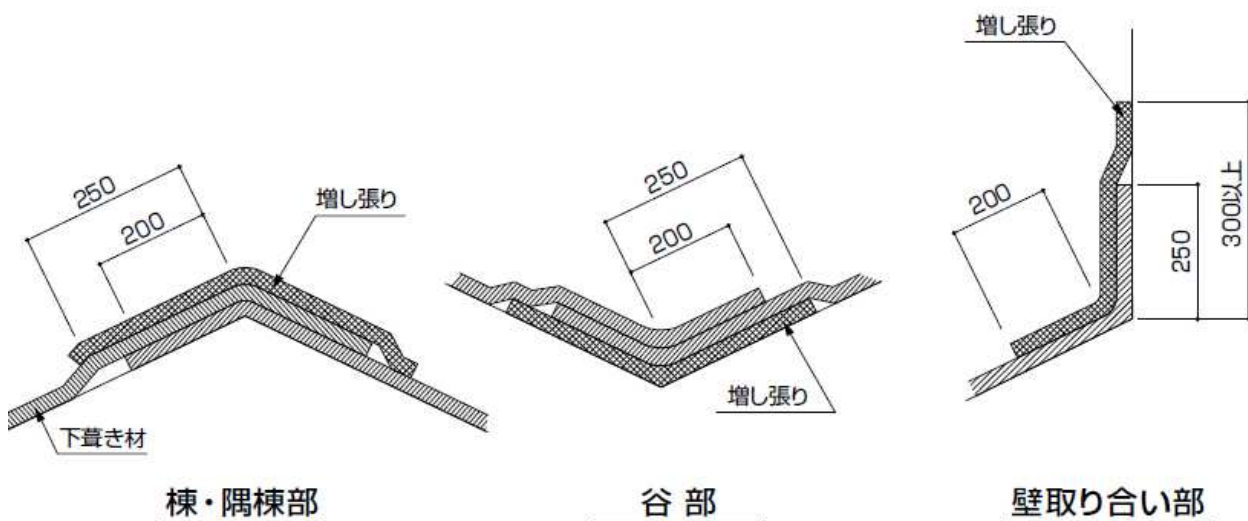
7-3 防水紙の施工

雨漏り防止の為には絶対必要なものです。必ず下記を厳守してください。

- (1) アスファルトルーフィング940品と同等以上の性能の防水紙を使用してください。
- (2) 重ね代は左右方向200mm以上、上下方向100mm以上取ってください。
- (3) 谷部及び棟部は、谷底及び棟頂部より両方向へそれぞれ250mm以上重ね合わせてください。
- (4) 屋根面と壁面立上げ部巻き返し長さは、250mm以上かつ雨押え上端より50mm以上としてください。
- (5) 下葺き端部は、はがれ等が生じやすく、漏水事故につながりやすいので、壁面立上げ部、谷部及び棟部は増し張りを行ってください。



重ね合わせ部

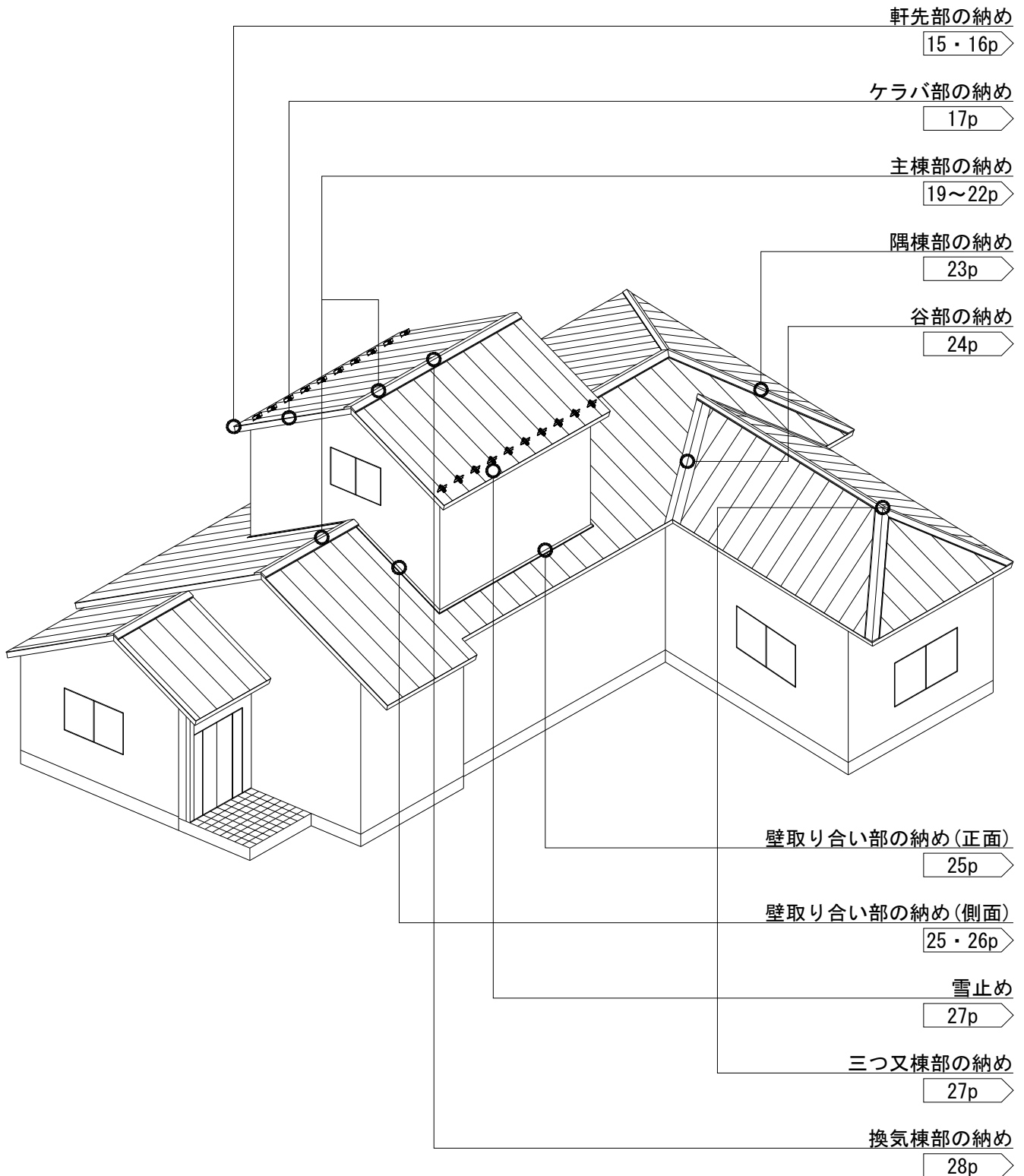


⚠ 注意 下地が湿潤している時や雨天時の敷き込みは避けてください。

7. 新築屋根

7-4 施工・納めの各部位

屋根工事を行うには、各部の標準的な納め方を参考にし、現場に応じた施工計画を立てて進めてください。



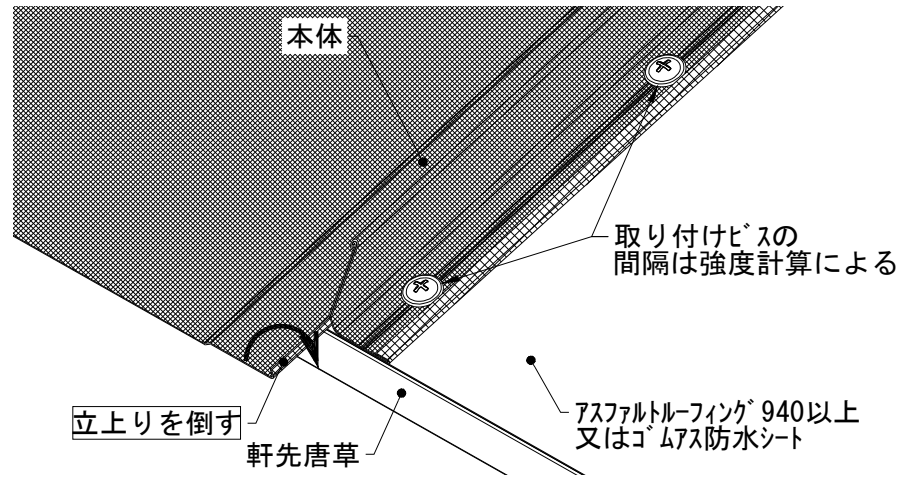
7. 新築屋根

7-5 本体の施工(参考)

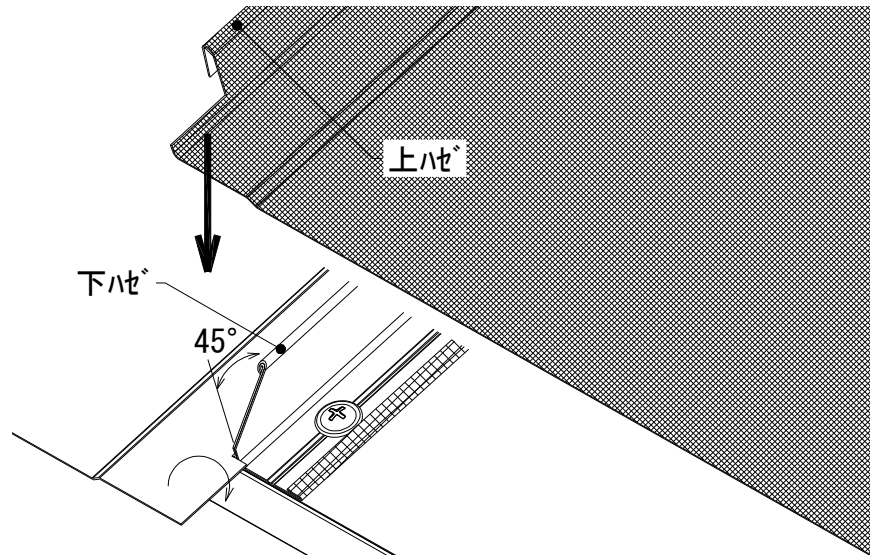
本体は左右どちらの葺き方向でも施工が出来ます。

軒先は下図のようにつかみ込み代を残して成型加工が出来ます。

※軒先つかみ込み代の端部は3mm程度立上りがあるので上ハゼを施工する前に倒してください。



下ハゼ側の面材端部をビス止めし、上ハゼを嵌合します。



手順

- ① 割付に合わせて本体を葺きます。
- ② 本体の板厚やリブ加工形状により、働き幅に若干の差異が生じますので割付に合わせて調整してください。
- ③ 軒先の出寸法に不揃がないよう注意してください。
- ③ 軒先切り欠き加工の場合、下ハゼ端部を軒先唐草先端に合わせてください。(つかみ代=18mm)
- ④ ファスナー間隔は、強度計算により安全性を確認し、決定してください。
- ⑤ 固定した下ハゼと上ハゼを合わせて、本体の両端が揃っている事を確認しながら、軒先側より上ハゼの上部を軽く足で踏み込み嵌合させてください。

⚠ 注意

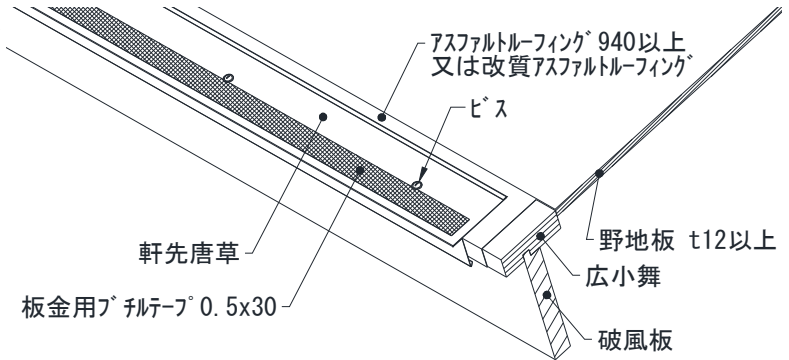
- 嵌合部は、横から押し込んだり、あまり強く踏み込まないでください。

7. 新築屋根

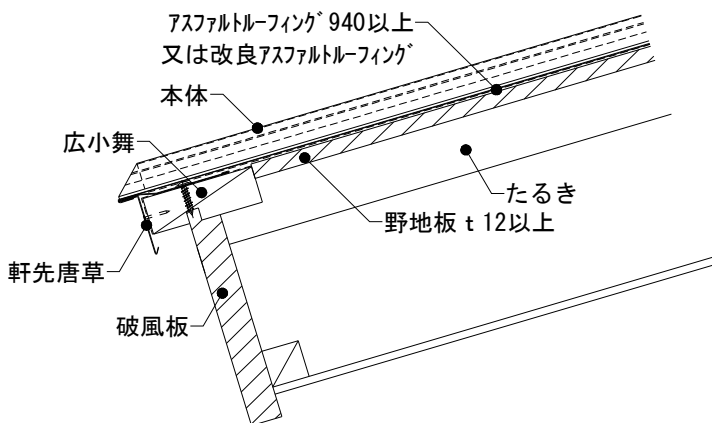
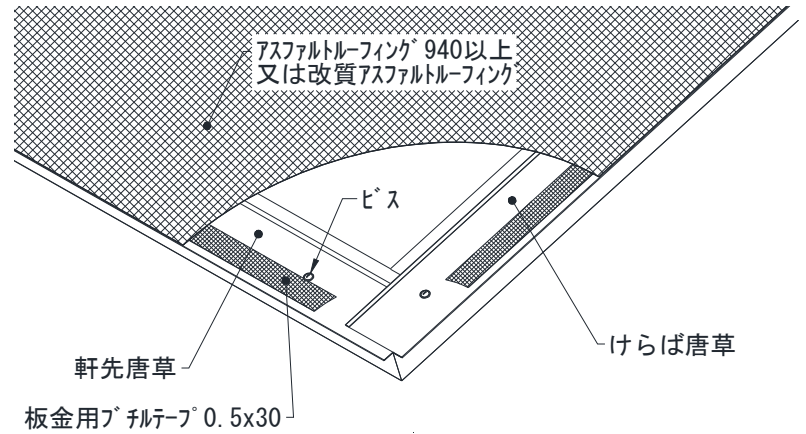
7-6 各部の納め[新築用](参考)

軒先

予め広小舞にルーフィング防水紙を敷き込み、軒先唐草をファスナーにて取付けてください。



軒先及びケラバ唐草の捨て水切り部に板金用防水テープ(両面)を貼り、ルーフィングの端部を固定してください



※ルーフィングは軒先唐草の上に被せるように敷いてください。
(妻部は唐草の下にルーフィング可)
※ルーフィングの端部は両面防水テープで固定してください。

7. 新築屋根

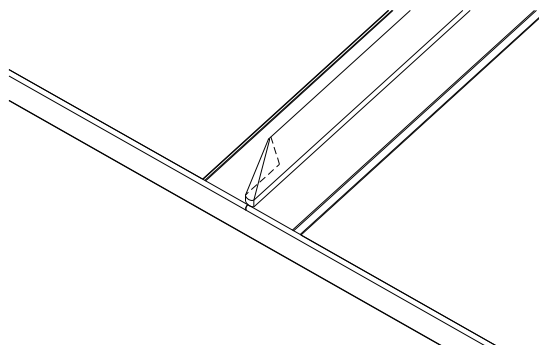
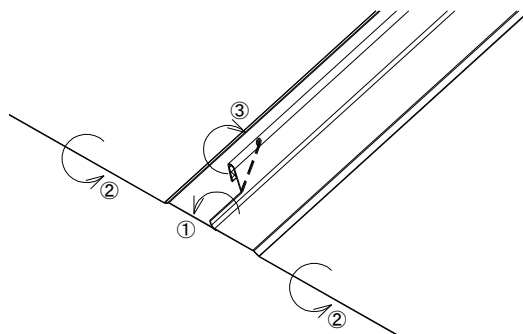
7-6 各部の納め[新築用](参考)

化粧棧鼻(本体加工)

(加工要領)

- ① 予め本体(下ハゼ)のつかみ代端部の立上りを倒している事を確認の上(P14上段参照)本体上ハゼを施工し、つかみ代端部の立上りを倒します。
- ② 屋根本体を軒先唐草に掴み込みます。
(つかみ代端部が切れないよう注意してください。)
- ③ 本体上ハゼの軒先端部は本体プレカット加工により斜め45度に倒して嵌合部の端部を包むように掴み込んでください。

※雁行型など軒先が妻部と交差する部分は本体下ハゼ部のプレカット同様に現場加工を行ってください。



7. 新築屋根

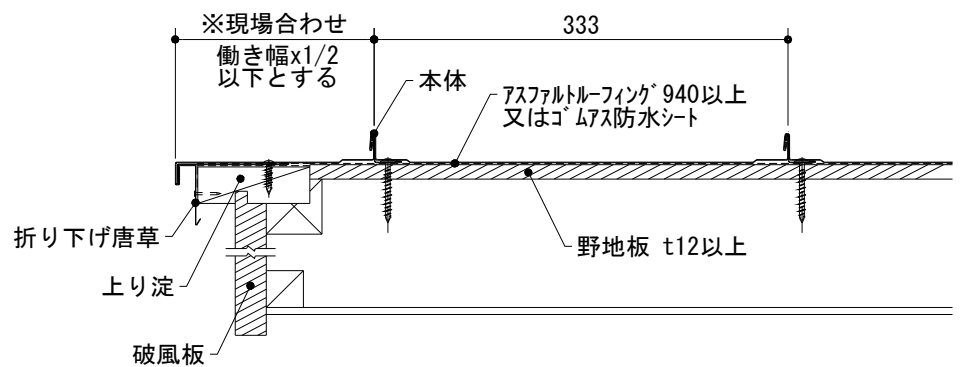
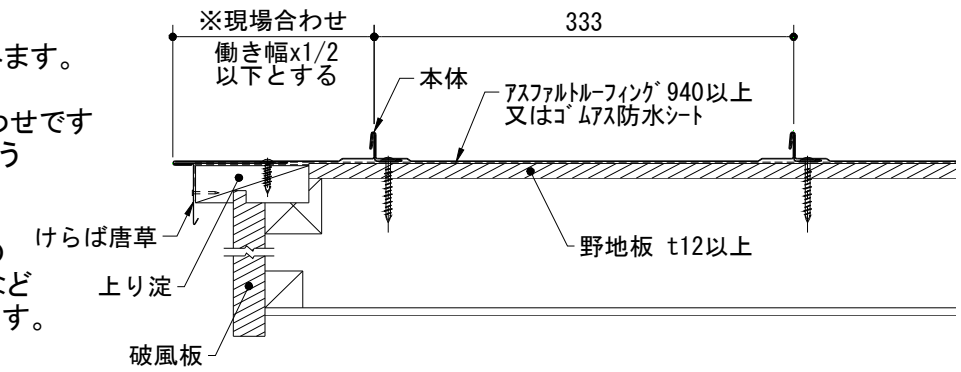
7-6 各部の納め[新築用](参考)

けらば (唐草仕様)

屋根本体をけらば唐草に組み込みます。

けらば端部の屋根本体は現場合合せですが、本体働き幅の1/2以下となるよう割り付けてください。

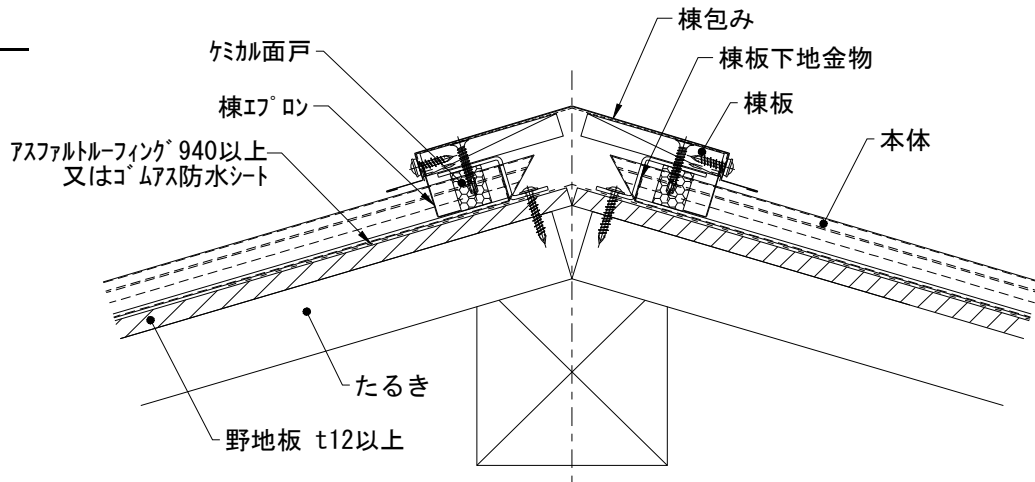
雁行型など本体の割付が働き幅の1/2以上となる場合折り下げ唐草など補強対策を行うことを推奨いたします。



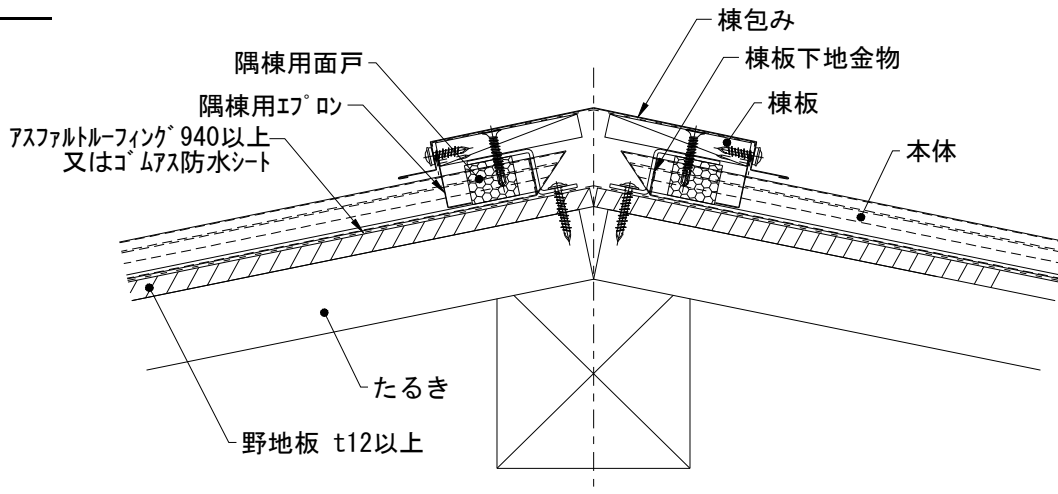
7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

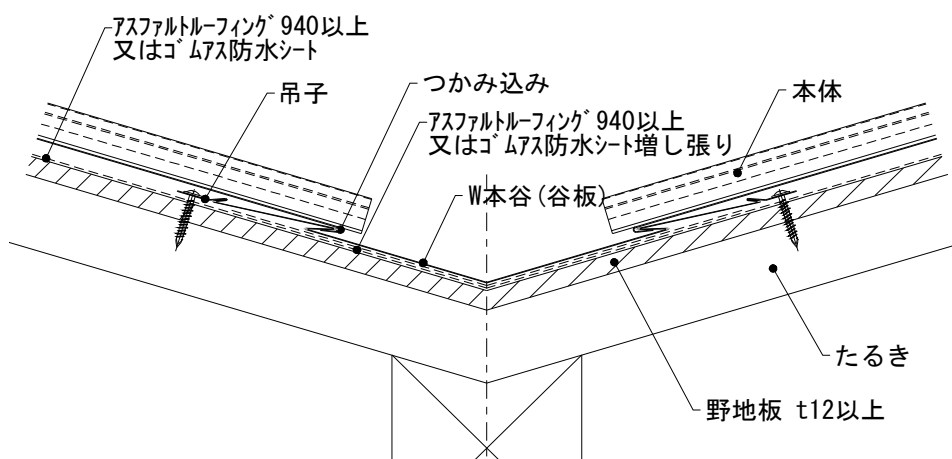
主 棟



隅 棟



谷 仕 舞 い



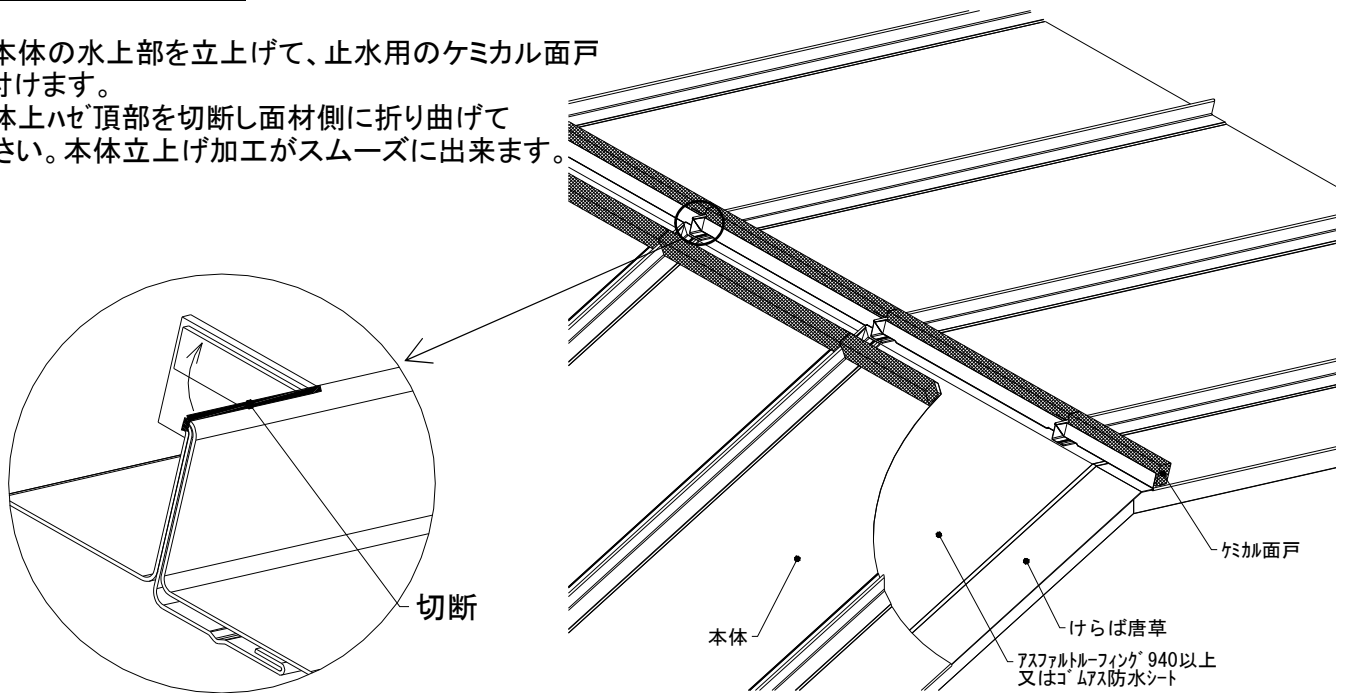
7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

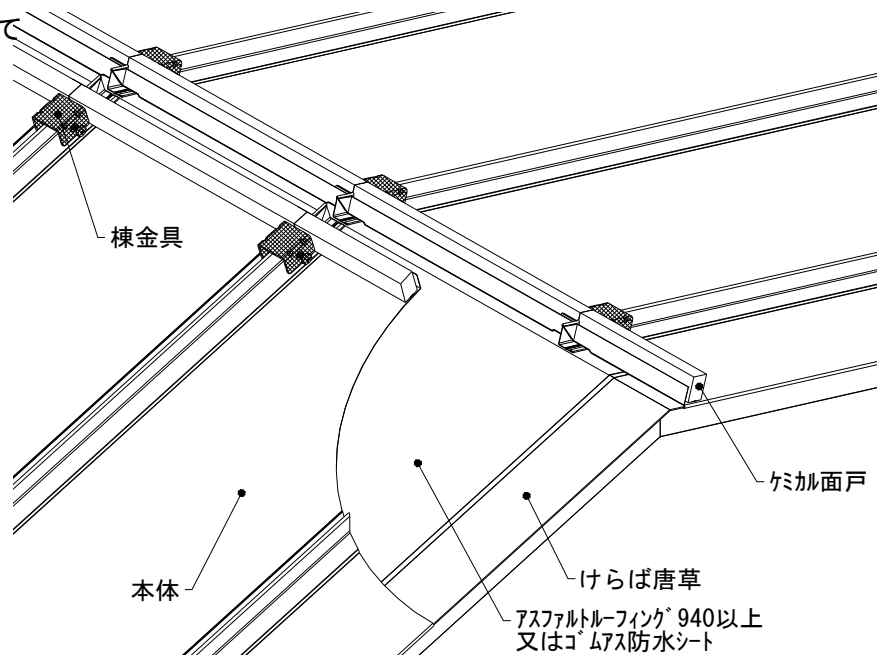
主棟(棟金具仕様の場合)

屋根本体の水上部を立上げて、止水用のケミカル面戸を取付けます。

※本体上ハゼ頂部を切断し面材側に折り曲げてください。本体立上げ加工がスムーズに出来ます。



ケミカル面戸の水下側に棟包みに合わせて棟金具を取付けます

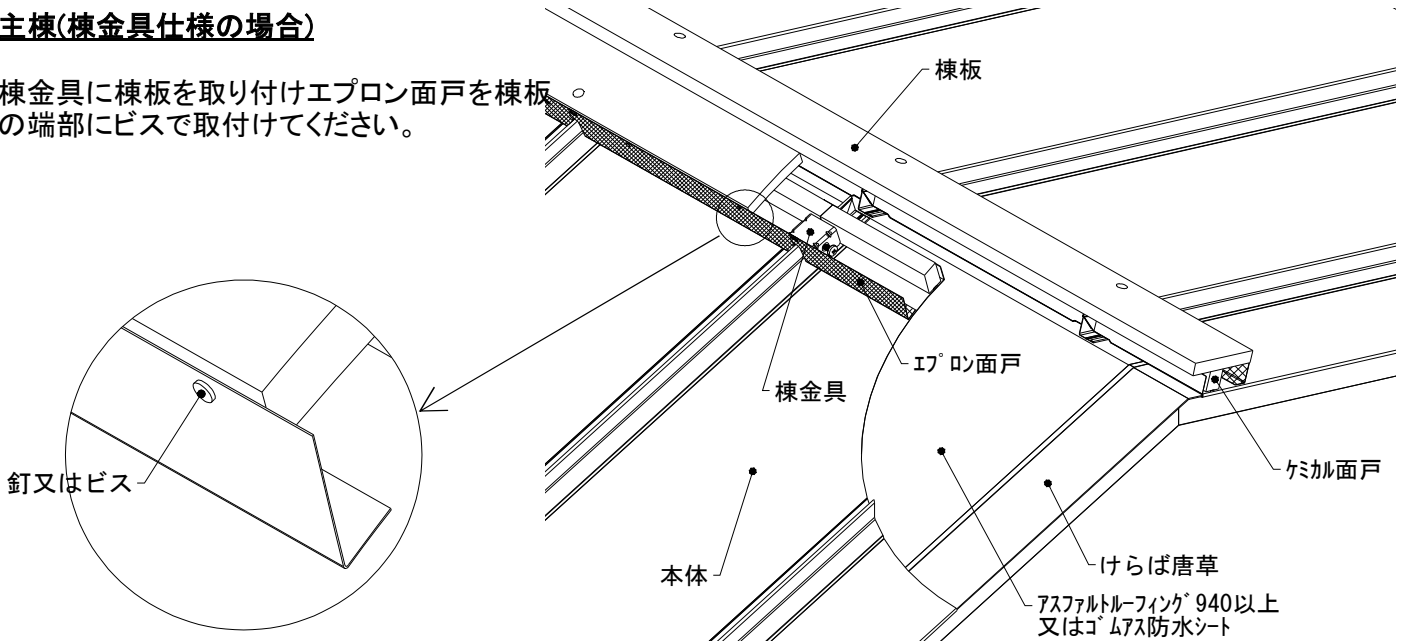


7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

主棟(棟金具仕様の場合)

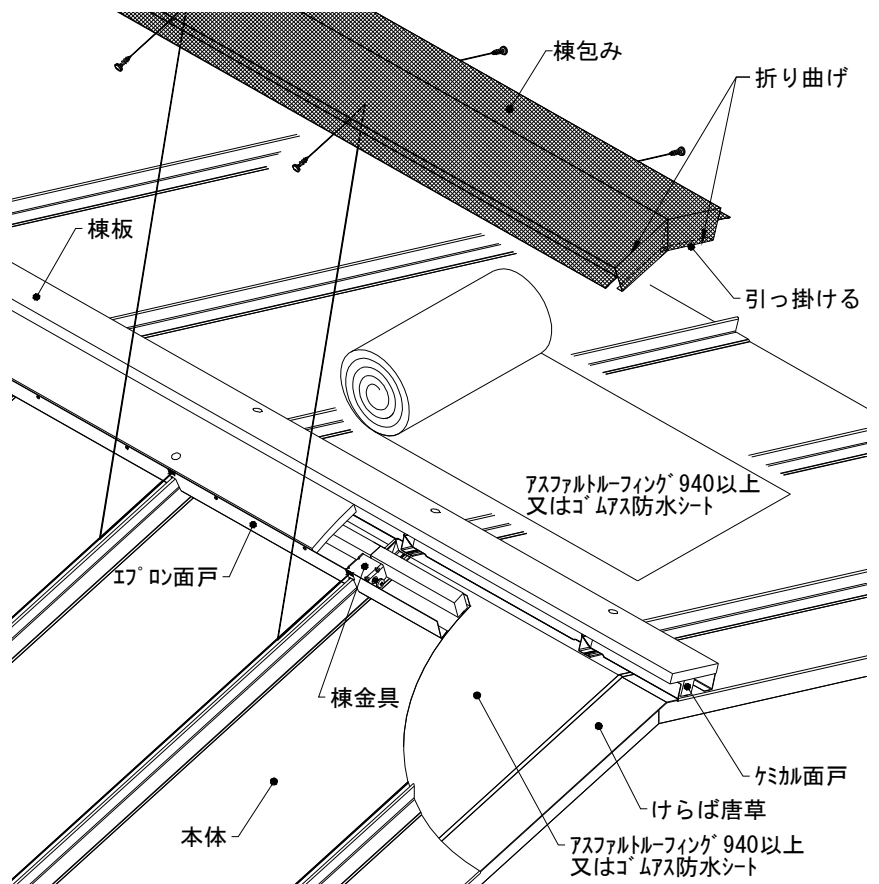
棟金具に棟板を取り付けエプロン面戸を棟板の端部にビスで取付けてください。



棟板の上に防水紙を敷き込み棟包みを被せます。

棟包みは通りよく被せて、ビスで棟板にしっかり取付けてください。

※棟の端部は折り曲げてけらば唐草に引っ掛けて納めます。



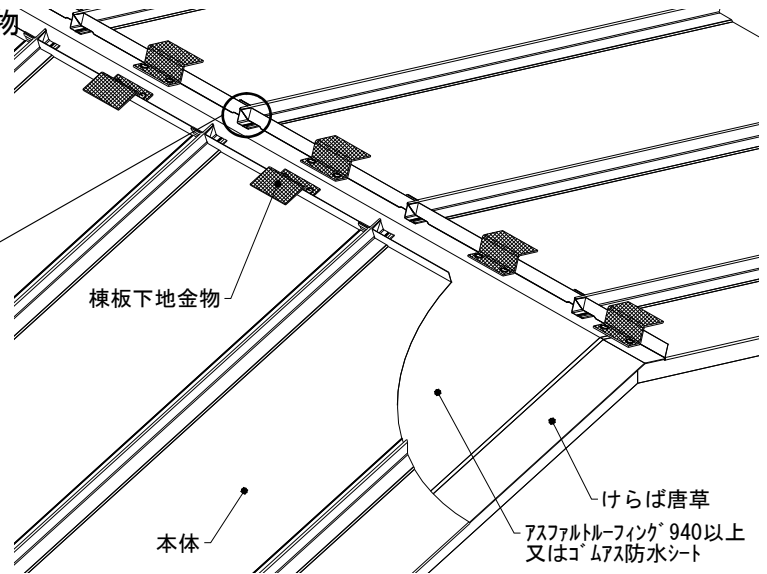
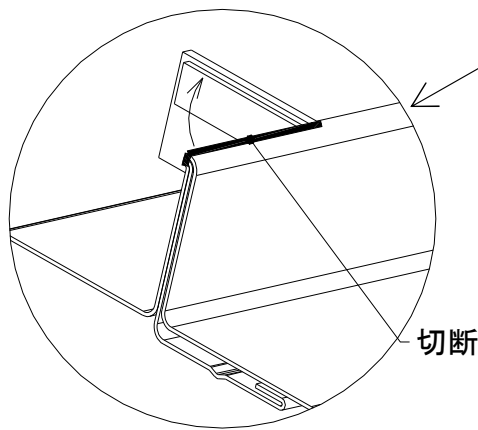
7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

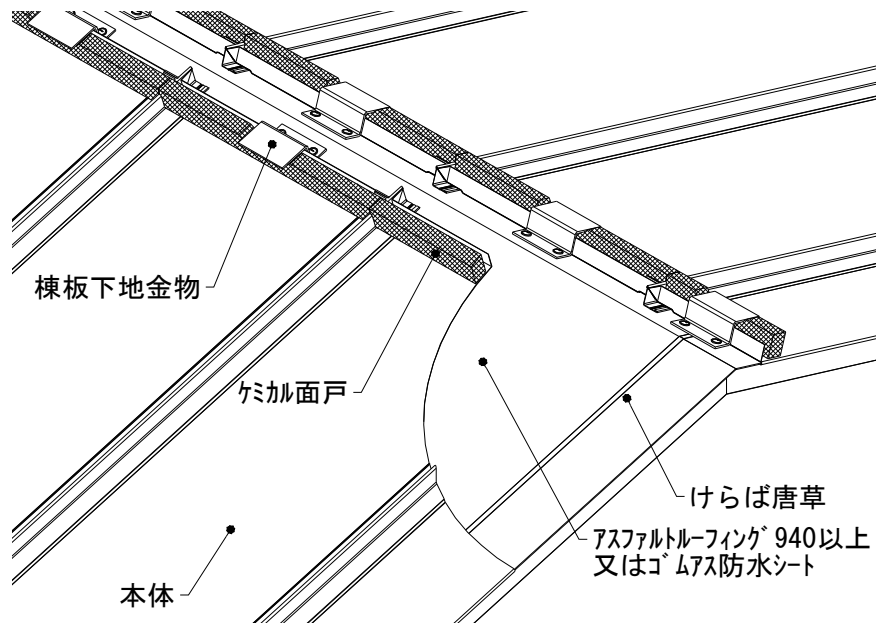
主棟(棟板下地金物仕様の場合)

屋根本体を上げたスペースの中央に棟板下地金物をビスで取付けます。

※本体上ハゼ頂部を切断し面材側に折り曲げて
ください。本体立上げ加工がスムーズに出来ます。



ケミカル面戸は棟板下地金物に差し込む
ように取付けてください。

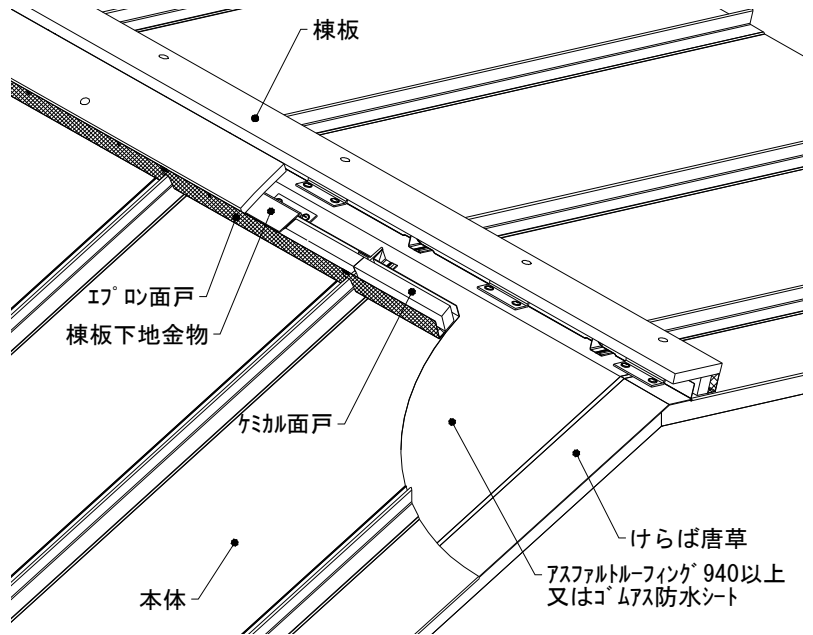


7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

主棟(棟板下地金物仕様の場合)

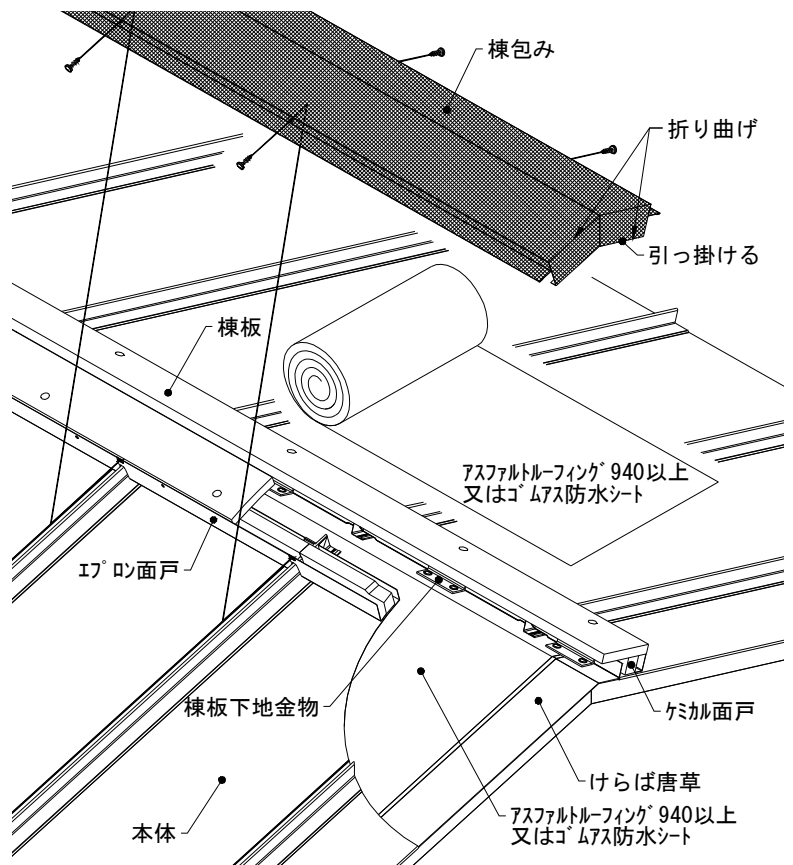
棟板下地金物に棟板を取付け、エプロン面戸を棟板端部にビスで取付けてください。



棟板の上に防水紙を敷き込み棟包みを被せます。

棟包みは通りよく被せて、ビスで棟板にしっかり取付けてください。

※棟の端部は折り曲げてけらば唐草に引っ掛けて納めます。

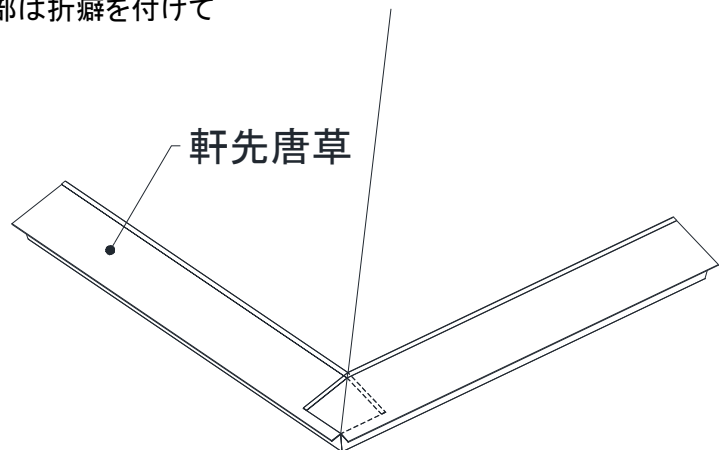


7. 新築屋根

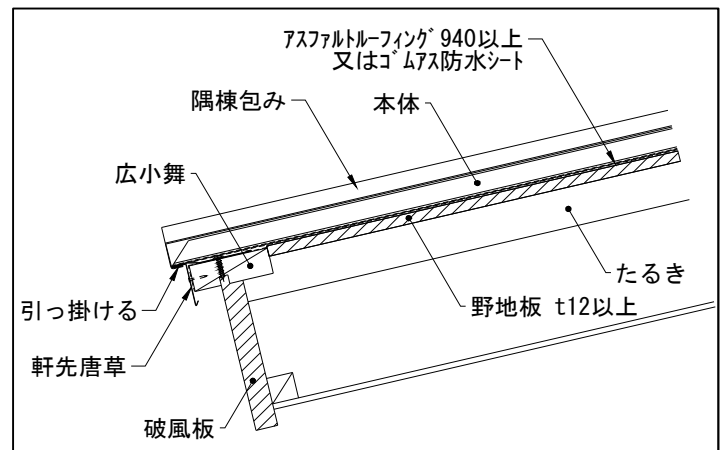
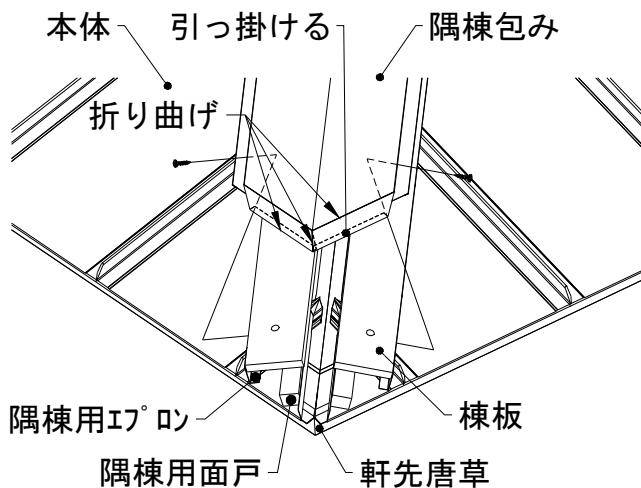
7-6 各部の納め[新築用](参考)

隅棟

軒先唐草の見切部を残し、屋根面をカットし見切部は折癖を付けて軒先の出隅角度に合わせて曲げ込みます。



屋根本体は、隅棟に合わせて立上げ加工を行い、隅棟用の面戸を取付けます。嵌合部の最頂部に棟金具を取付けて隅棟用のエプロン面戸をビスで取付け、軒先の小口加工を施した棟包み(隅棟)を被せて棟板にしっかりとビスで固定します。



※隅棟の軒先端部は小口加工を施し、軒先唐草に引っ掛けて屋根本体は軒先唐草に摺り込みます。

7. 新築屋根

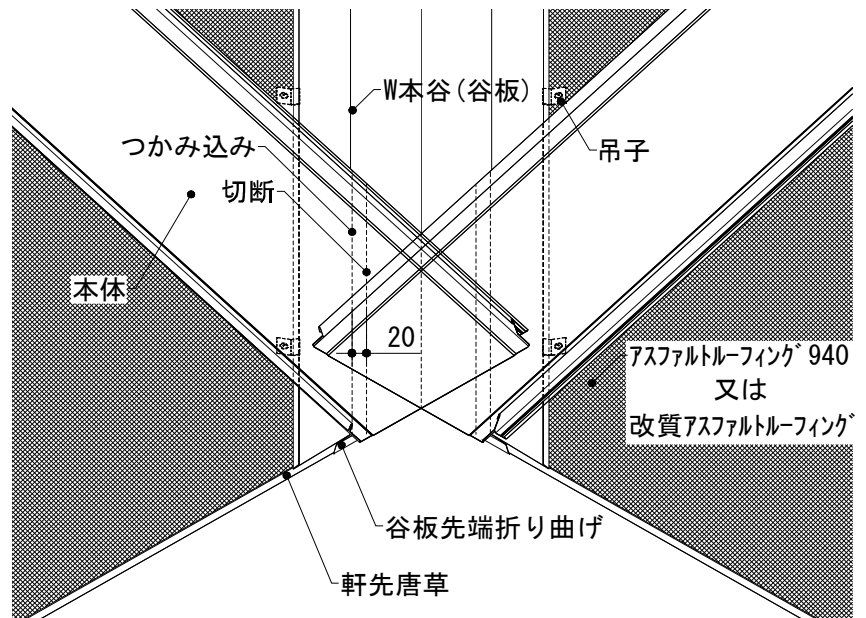
7-6 各部の納め[新築用](参考)

谷部の納め

W本谷(谷板)は谷の中心になるよう谷板に穴を空けないよう、本体同材で作った吊子で固定してください。

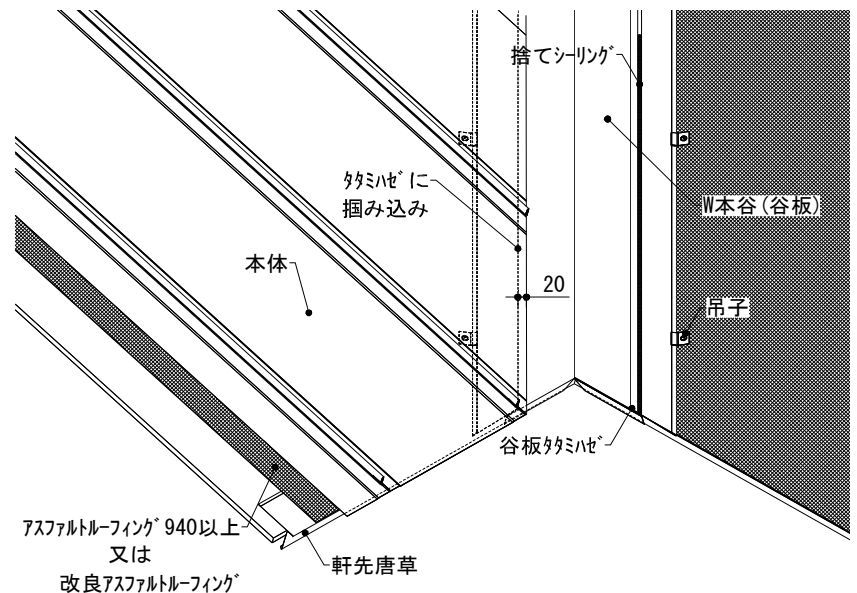
本体は谷板のタタミハゼより掴み込み代20mmを残し切断します。

W本谷の軒先部は、水が切れるように折り曲げてください。



W本谷のタタミハゼから30mm程度上部に捨てシーリングを施し、本体をタタミハゼに引っ掛けながら葺きます。

屋根本体の嵌合部はタタミハゼ先端より20mm伸ばしてください。嵌合小口のコーキングは小口のみに行ってください。(嵌合下端などコーキングを施し過ぎると捨て板に侵入した雨水を排出出来ず漏水する恐れがあります。)



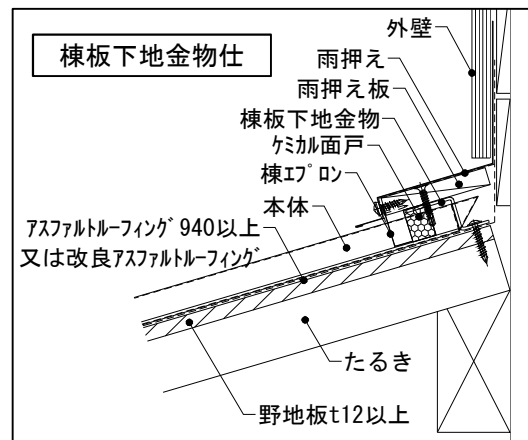
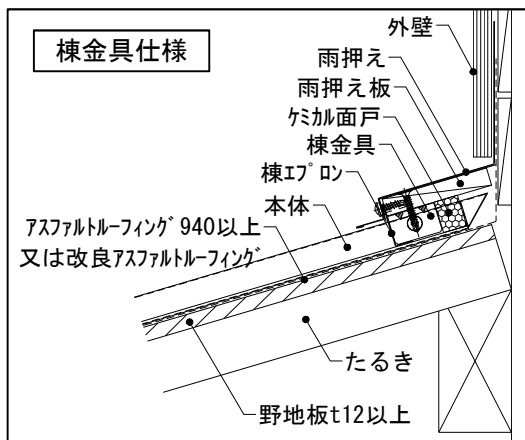
7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

正面雨押え

棟納め要領に同じく納めてください。

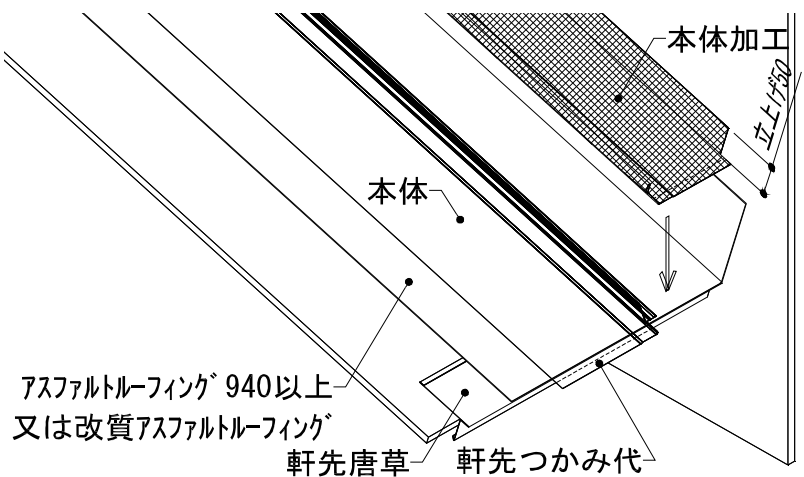
※雨押え立上りは120mm以上を推奨しています。



7-6 各部の納め[新築用](参考)

壁取合(妻側)

立上り寸法に合わせ屋根本体を50mm程度立上げ、本体に嵌合させてください。

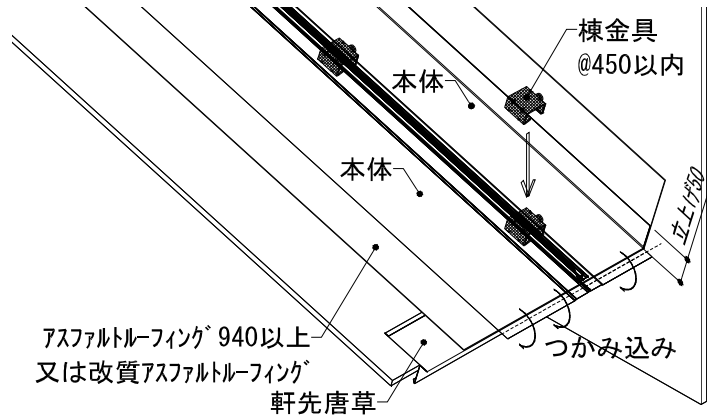
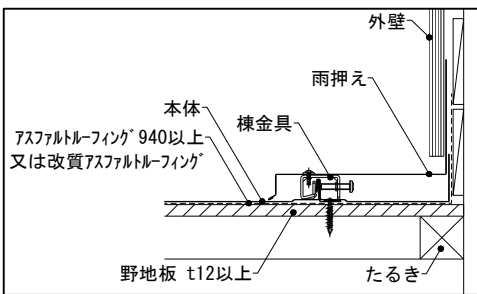


7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

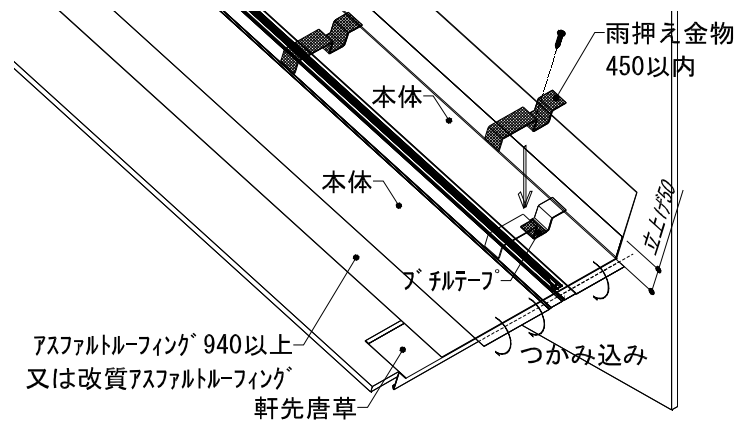
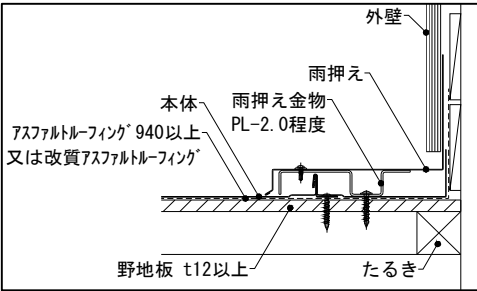
壁取合(妻側) (棟金具)

ケラバ端部の立上げ済みの本体を嵌合させた後、嵌合部に棟金具を@450mm以内となるように取付けます。



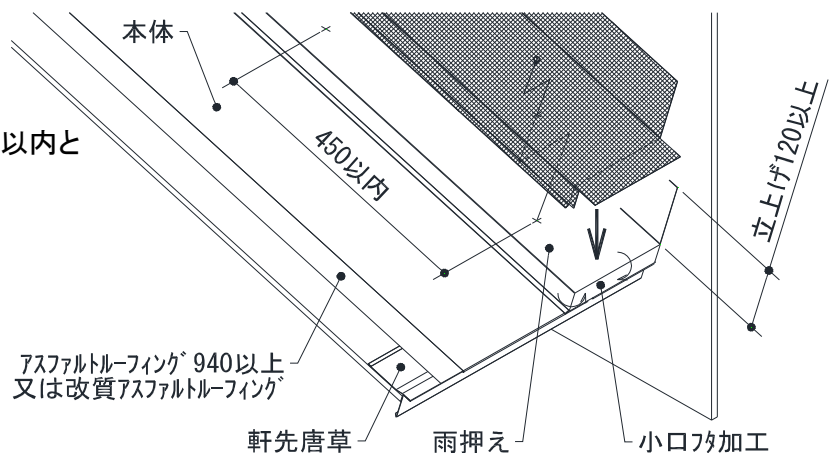
壁取合(妻側) (雨押え金物)

ケラバ端部の立上げ済みの本体を嵌合させた後、板金用ブチルテープを挟み込み雨押え金物をファスナーで@450mm以内となるように取付けます。



壁取合(妻側) (雨押え)

雨押えを本体に被せ、ファスナーで棟金具又は、雨押え金物にファスナーで@450mm以内となるように取付けます。

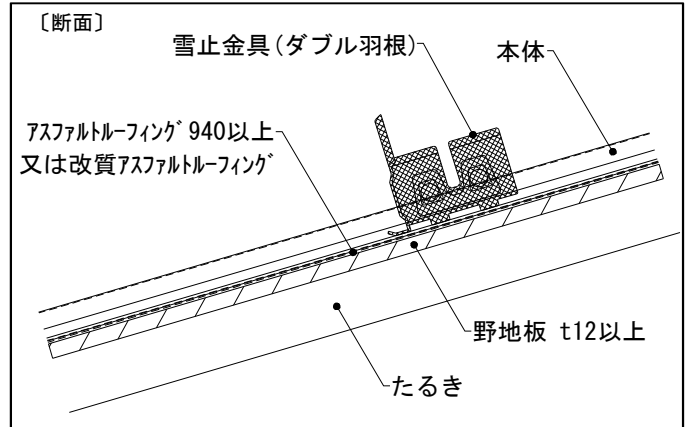
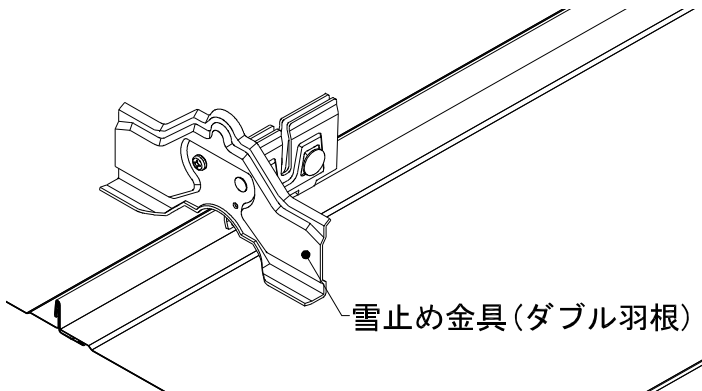


7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

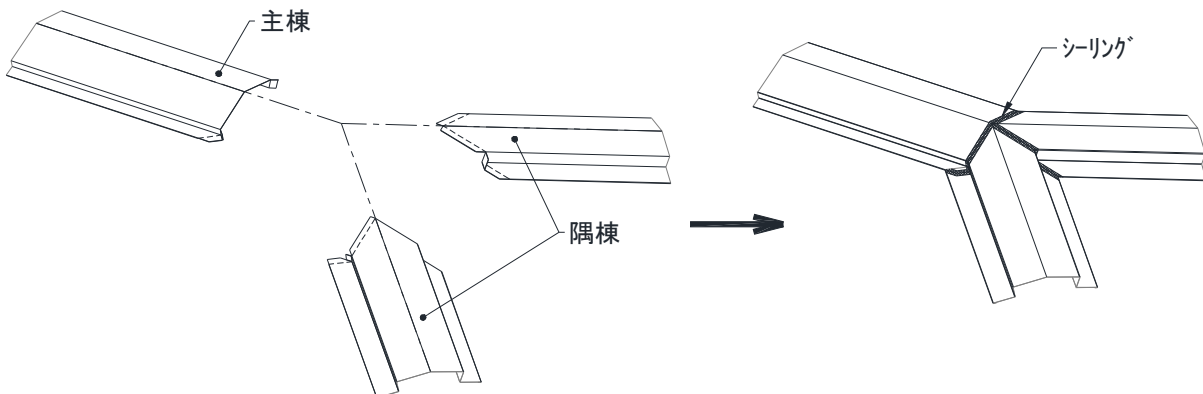
雪止

通りよく締め過ぎに注意し、嵌合ハゼ部に雪止め金具を取付けてください。



三つ又棟

1. 棟カバー端部を現場加工してください。
2. 加工した棟カバーを両隅棟、主棟の順に勾配に合わせて取り付けます。
3. 三つ又合わせ部を確実にシーリング処理してください。



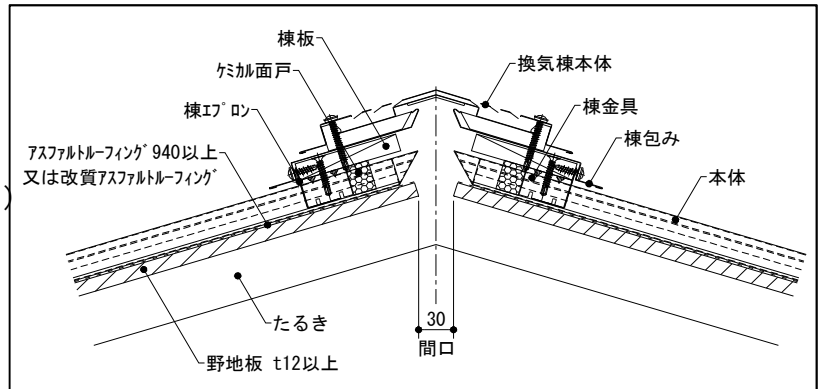
7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

換気棟

(レギュラータイプ)

野地板に30mm開口をとります。
開口部に捨水切りと下葺き材を取り付けます。
棟包みを取り付けます。
(但し、換気棟開口部には取り付けません。)
換気棟本体を取り付けます。
なお下地材は本体にセットされています。
棟包みと換気棟の重なり代は70mmとし、
必ず防水パッキンを使用してください。
(3×30mm)

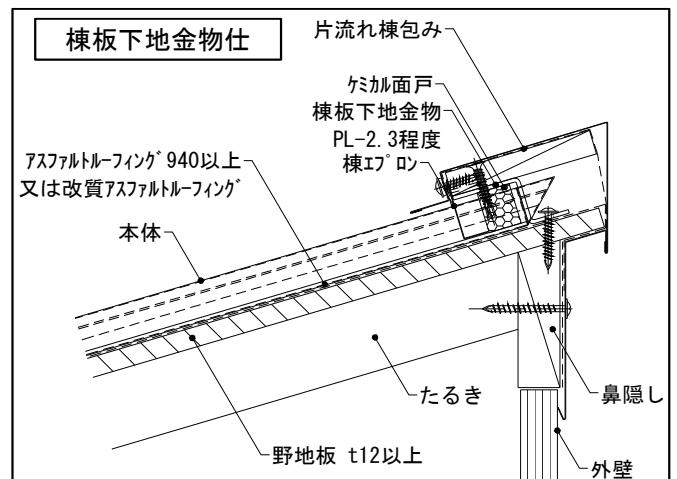
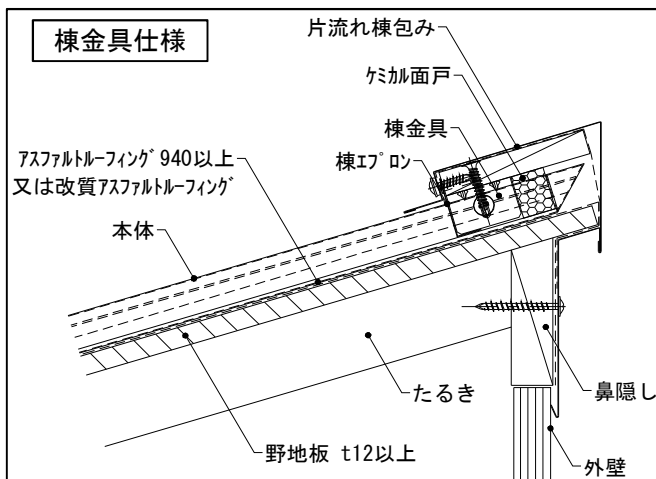


⚠ 注意

- 換気棟は切らないでください。
- 換気棟同士を直接つながないでください。(中間に棟包みを入れてください。)
- 換気棟の上には絶対上がらないでください。(換気不良、雨漏れの原因となります。)

片棟包み

棟納め要領に同じく納めてください。



7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

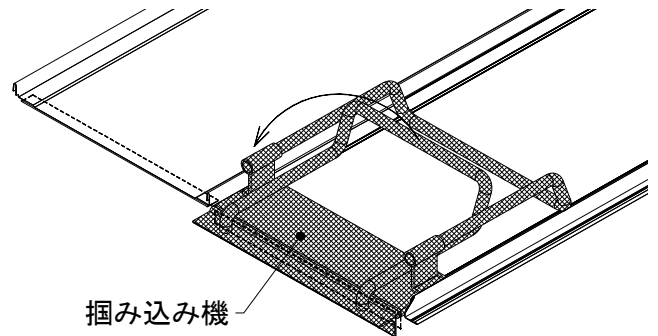
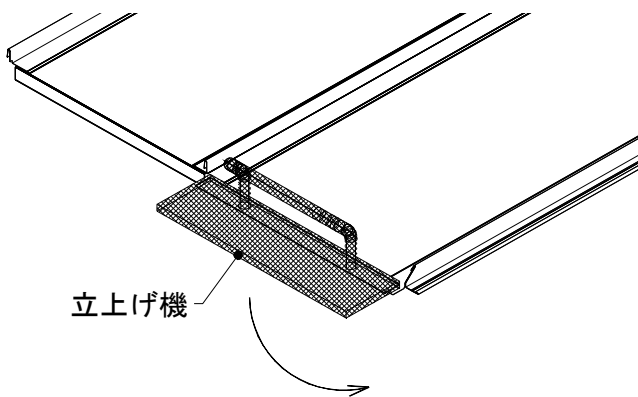
掴み込み専用工具（軒先、ケラバ）

※軒先の掴み込みは専用工具を使うと早く、美しく仕上がります。

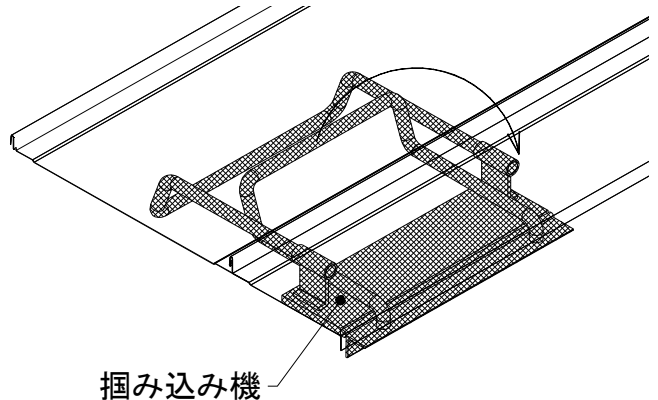
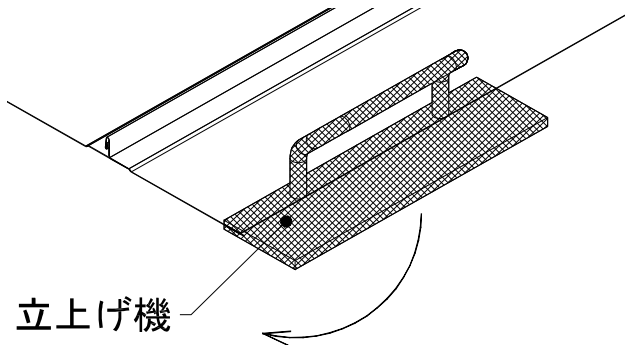
- ①立下げ機にて軒先の掴み込み部分を立ち下げ
- ②掴み込み機にてしっかりと唐草巻き込みます。



軒先の掴み込み



ケラバの掴み込



8. 施工後の注意

点検・補修・清掃

施工後は屋根を美しく、また屋根の機能・品質を維持する為に必ず点検・補修・清掃を行ってください。

1. 屋根面を歩く時は、静かに歩くよう注意してください。
尚、棟包み、ケラバ包み、ジョイント部等の上には絶対に乗らないでください。
2. 屋根面に傷を付けないように注意してください。
万が一傷を付けてしまった場合は、必ず指定の補修塗料を塗ってください。
3. 他の構築物や金具等の取付施工中の汚れ、ゴミ、屑等は、きれいに清掃してください。
清掃の際は、柔らかい物で、塗装に傷等が生じない物を使用してください。
またシンナー等は塗膜を破壊する恐れがありますので絶対に使用しないでください。
4. 鉄板の切粉、切りくず、及び釘等を屋根面に放置すると、もらい錆の原因となります。
必ず完全に除去してください。
5. 屋根各部に小鳥や蛇が侵入する穴が残っていないか再点検し、もしあれば対策してください。

※記載された試験データは弊社で実施した試験データの一例であり、その結果を保証するものではありません。

※当該技術資料に掲載されている仕様等は、予告なく変更することがあります。

※本資料に掲載された内容の無断転載や複写は法律で禁止されています。